

第6章 近年の主要研究成果

本章では、近年の研究成果を紹介する。本研究所史の守備範囲は昭和31年から現在までとなることから、それぞれの年代に応じた研究成果を選定し紹介することが本来ではあるが、半世紀を超える長い期間であり、現在の研究員において古い時代の研究成果を選定し、正確に記述することは限界がある。このため、現人員で遡りが可能な範囲としたことから、近年のものが主となっている。昭和の時代など過去の研究成果（業績）については、第7章資料編において確認いただきたい。

1. 基盤技術研究室 97

① フード・循環研究課

- 土壌調査（基準田調査、定点調査） 97-99
- 鶏ふん堆肥の水稲への利用 100-101
- 伝統野菜の優良種苗選抜・育成 103-103
- 水稲品種のDNA品種判別 104-105
- 腎臓透析患者に対応した低リン米の開発 106-107
- 骨の健康維持に役立つビタミンKを豊富に含む緑茶の開発 108-109

② 農産物安全安心研究課

- コムギ病害管理 110-111
- 天敵利用によるイチゴの害虫管理 112-113

2. 生産技術研究室 114

① 地域連携研究課

- 果実カラーチャート付き作業用手袋の開発 114
- 農業と福祉の連携 115-116
- 檻・罟の遠隔監視・操作システム（まるみえホカクン）の開発とサル群捕獲技術確立による大幅な被害軽減 117-118

② 農産研究課

- 水稲（うるち米）品種の開発 119-120
- 小麦新品種の導入 121-122
- チゼル深耕体系による小麦・大豆の多収技術の開発 123-124

③ 野菜園芸研究課

- 共同育種によるイチゴ種子繁殖型品種「よつぼし」の開発 125-127
- 植物工場三重実証拠点 128

3. 茶業・花植木研究室 129

① 茶業研究課

- 茶品種「みえ緑萌1号」 129-130
- 小型送風ファンによる茶樹凍霜害防止技術の確立 131
- より良い茶園施肥管理方法の開発 132-133
- 黄色粘着板を用いた吸汁性害虫及びその土着天敵のモニタリング手法の開発 134

- 煎茶製造工程における茶葉の菌数増減特性及び製造施設内の生菌数分布特性 135
- 半発酵による新香味茶製造技術開発に関する研究 136
- 茶葉の高付加価値化を目指した研究取組と商品開発 137-138
- ② 花植木研究課
 - ツツジ類の新品種の開発 139
 - ツツジ類の連作障害対策技術の確立 140
 - 早期緑化のためのマット植物の効率的生産技術の開発 141
 - 浄水ケーキの鉢物用土利用技術の開発 142
 - 薬用作物の栽培の取組 143
- 4. 伊賀農業研究室（伊賀農業研究課） 144
 - 高品質種子生産のための諸条件の解明 144
 - イネごま葉枯病抵抗性水稻品種「みえのゆめ BSL」の育成 145-146
 - 酒造好適米「山田錦」の高品質安定生産のための技術開発 147-148
 - 三重県の栽培条件に適した酒造好適米新品種「神の穂」の開発 149-150
 - コムギ縞萎縮病の抵抗性を強化した「タマイズミ R」の開発 151
 - 伊賀地域に適したブドウ新品種の選定 152-153
 - 粒ブドウ販売を目指したブドウ「シャインマスカット」の
省力果房管理法及び貯蔵技術の開発 154-155
- 5. 紀南果樹研究室（紀南果樹研究課） 156
 - カンキツ類の新品種の開発
「みえ紀南1号」～「みえ紀南6号」を品種登録 156-157
 - 温州ミカンの高品質化技術の開発 158-160
 - カンキツにおける省力減肥栽培法の開発 161-162
 - カンキツにおけるウイロイド無毒化技術の開発と
褐色腐敗病に対するマルチ栽培の発生抑制効果の検証 163-164
 - 新果樹・亜熱帯果樹の地域適応性と栽培技術の確立 165-166